

臨時休業中課題【追加】

国語科より

1. ノート（普通の大学ノートでよい）を2冊用意する。
1冊を「国語総合A（現代文）」、もう1冊を「国語総合B（古典）」のノートとして使用する。

2. 課題の内容

【国語総合A】 ① 本を 2冊以上 読み読書レポートを書く。

記入の仕方

読書レポート

1. 読んだ書籍

・ 書名…

・ 編著者名…

・ 出版社名…

2. 印象に残った箇所（印象に残った箇所を書き写しましょう。長い場合は要約して構いません）。

3. 語句の意味調べ（意味の分からなかった語を書き出し、辞書や事典で意味を調べて書きましょう。）

（例）閉口…どうにもならなくて困ってしまうこと。

①

②

③

④

⑤

4. 2で提示した内容について、あなたが考えたことを〈他者に伝える〉ことを意識して分かりやすくまとめましょう。

②「でる順 漢字 書き取り・読み方」P.14～29

漢字と読みを5回ずつノートに記入する。

※授業再開後、前回範囲と併せて(P.6～29)国語総合Aの最初の授業で確認テストを行います。

【国語総合B】 ①「体系古典文法」P.12 基本問題に取り組む。

ノートに問題番号と答えのみを記入し、答え合わせを行う。

② 後に添付されている PDF ファイル「体系古典文法自習課題」の問題に取り組む。

ノートに問題番号と答えのみを記入し、答え合わせを行う。

3. 課題の提出

前回(4/10)提示の課題…プリント7枚

今回(4/16)提示の課題…ノート2冊

クラス・出席番号・名前を記入の上 次回登校日 に提出

4. その他

高校の国語学習にスムーズに移行できるようにネットで以下のサイトを利用して下
さい。

☆「NHK 高校講座」を視聴する。

各回 10 分程度

番組 : 「ベーシック国語」

第 5 回 文学史～芥川龍之介～

第 9 回 古文学習の魅力

第 10 回 古文歴史的仮名遣い

第 14 回 漢文学習の基礎

第 15 回 漢文～訓読の基礎～

番組視聴の上、「理解度チェック」に取り組みましょう。

提出物はありません。

他の回も興味があればぜひ見てみましょう!!

「ロンリのちから」 全20回

古典文法

自習課題

一年（組）（番 氏名）

「体系古典文法」(6頁〜25頁)をよく読んで、それぞれの空欄を埋め、後の問題を解きなさい。

一、古語

わたしたちが現在使っていることばを現代語(一―①)と呼ぶのに対して、平安時代中ごろのものを基本とする、近世(江戸時代)までのことばを古語(一―②)と呼んでいる。

二、古典文法

言葉の用い方には一定の約束や慣習があり、この約束や慣習は(二―①)と呼ばれる。また、わが国では、現代語における(二―②)に対して、古語には(二―③)・(二―④)がある。

三、仮名遣い

文語文と口語文との違いの一つに、仮名遣いがある。口語文に使われる仮名遣いを現代仮名遣いというのに対して、文語文に使われている仮名遣いを(三―①)という。

四、読み方

1、語中語末のハ行は「ひ・ふ・ほ」は、それぞれ(四―①)と発音する。語頭にあるハ行音は、もとのまま発音する。

例 にほひ↓(四―②) わらは↓(四―③) あめふり↓(四―④)

2、ワ行の「ゐ・ゑ」は、それぞれ「イ・エ・オ」と発音する。

例 率^{ひき}ある↓(四―⑤) 植^うゑたり↓(四―⑥) をかし↓(四―⑦)

3、母音が連続するときは、長音になる。

① au↓o(オ) ② iu↓yu(ユ) ③ eu↓yo(四―⑧) ④ ou↓io(四―⑨)

4、母音に「ゑ」が続くとき、1と3の原則が働いて長音になる。

例 てふ 1の原則により(t e h u↓t e u) 3の原則により(t e u↓t y i o)

5、助動詞「む」「らむ」「けむ」「助詞」なむなどの「む」は「ん」と発音する。

6、「ぢ」「ひ」「くわ」「ぐわ」は、それぞれ「ジ・ズ・カ・カ」と発音する。

例 ぢく↓(四―⑩) みづ↓(四―⑪) にくわん↓(四―⑫) ぐわん↓(四―⑬)

次のそれぞれの問題を解きなさい。

A、次の空欄にあてはまるひらがなを書き込みなさい。

わ	や
A―③	A―①
う	ゆ
A―④	A―②
	よ
A―⑤	

(大きく丁寧に書きなさい)

B、次の古語を現代仮名遣いに直してひらがなで記せ。

- | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| ① ななむか | () | B―① | () | ② かひもちひ | () | B―② | () | ③ おもひ | () | B―③ | () |
| ④ わらふ | () | B―④ | () | ⑤ かひ | () | B―⑤ | () | ⑥ をしか | () | B―⑥ | () |
| ⑦ もみぢ | () | B―⑦ | () | ⑧ つはもの | () | B―⑧ | () | ⑨ むね | () | B―⑨ | () |
| ⑩ あむ | () | B―⑩ | () | ⑪ うゑき | () | B―⑪ | () | ⑫ とのゑ | () | B―⑫ | () |
| ⑬ をり | () | B―⑬ | () | ⑭ めん | () | B―⑭ | () | ⑮ あづまぢ | () | B―⑮ | () |

C、次の話の読み方をカタカナで記せ。

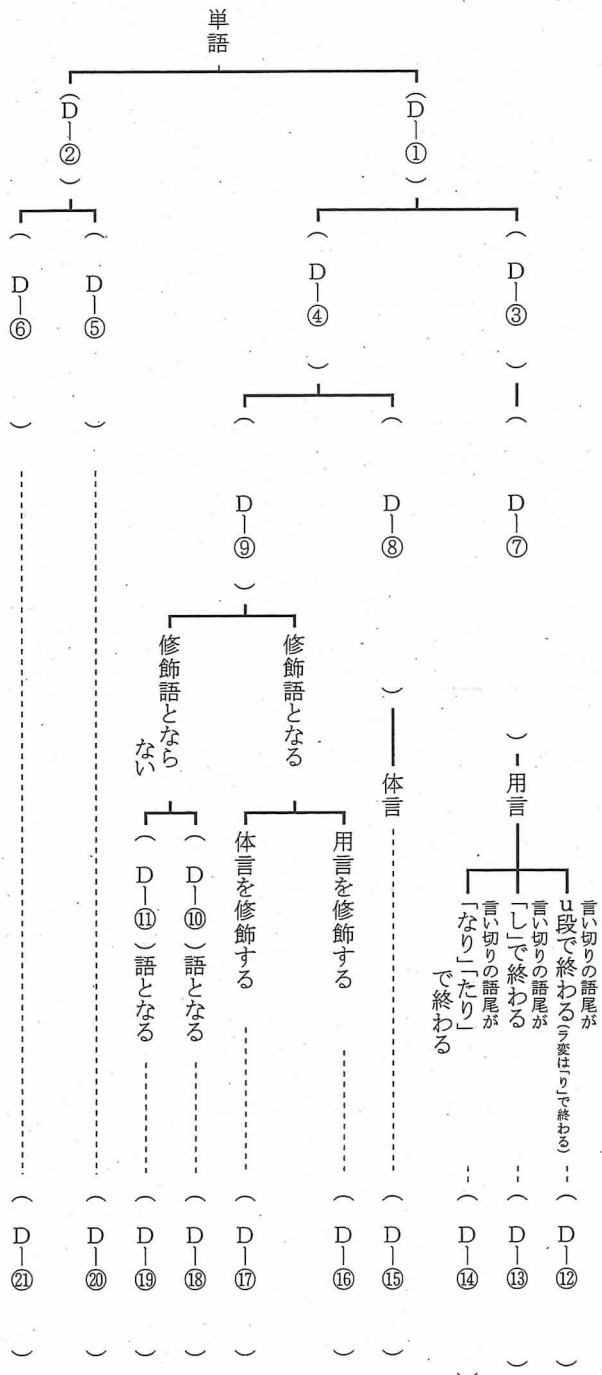
- | | | | | | | | | |
|---------------------|-----|-----|--------------------|-----|-----|----------------|-----|-----|
| ① やう(様) ↓ () | C―① | () | ② けふ(今日) ↓ () | C―② | () | ③ いふ言(ひ) ↓ () | C―③ | () |
| ④ まうす(申す) ↓ () | C―④ | () | ⑤ うつくしう(美しい) ↓ () | C―⑤ | () | | | |
| ⑥ けうらなり(清らなり) ↓ () | C―⑥ | () | ⑦ てふ(蝶) ↓ () | C―⑦ | () | | | |
| ⑧ せうせう(少々) ↓ () | C―⑧ | () | ⑨ やうやう(漸う) ↓ () | C―⑨ | () | | | |
| ⑩ くわじ(火事) ↓ () | C―⑩ | () | ⑪ いふ言(ひ) ↓ () | C―⑪ | () | | | |
| ⑫ いづげん(幽玄) ↓ () | C―⑫ | () | | | | | | |

五、品詞

単語の分類の基準では、次の三つが一般的である。

- ・自立語か、（五―①）かどうか。
- ・（五―②）するか、（五―③）しないか。
- ・自立語で、どんな文節になり得るか。

D、次の品詞分類表の空欄を埋めなさい。



六、用言 ―活用のある（六―①）―

用い方によって語形が規則的に変化することを（六―②）といい、活用する単語を（六―③）、変化する語形を（六―④）という。また、活用しても変化しない部分を（六―⑤）、活用によって変化する部分を（六―⑥）という。

自立語で活用があり、単独で述語になることができる語を（六―⑦）という。（六―⑧）は、動詞・形容詞・形容動詞の三つに分かれる。

- 1、動詞
↓自立語で、活用があり、述語となることができる語。u段の音で言い切る。ただし、ラ変は「り」で終わる。
- 2、形容詞
↓自立語で、活用があり、述語となることができる語。「し」で言い切る。
- 3、形容動詞
↓自立語で、活用があり、述語となることができる語。「なり」「たり」で言い切る。

文語の活用語には次の六つの活用形がある。

- 1、未然形
↓下に続く主な語としては「ず」「む」がある。
- 2、連用形
↓下に続く主な語としては「たり」「て」がある。
- 3、終止形
↓言い切るときに用いる。
- 4、連体形
↓下に続く主な語としては「こと」「とき」がある。
- 5、已然形
↓下に続く主な語としては「ども」がある。
- 6、命令形
↓命令で言い切るときに用いる。

自立語で活用があり、述語となることができ、言い切りの形がu段になるものを（六―⑨）という。口語動詞の活用は五種類、文語動詞の活用は九種類に分類される。

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| 1、四段活用 | 2、ナ行変格活用 | 3、ラ行変格活用 | 4、下一段活用 |
| 5、下二段活用 | | | |
| 6、上一段活用 | 7、上二段活用 | | |
| 8、カ行変格活用 | | | |
| 9、サ行変格活用 | | | |
- 「活用形を答えなさい。」という設問に対しては（未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形）の六つのうちの二つを答える。
- 「活用の種類を答えなさい」という設問に対しては（カ行四段活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用・カ行下一段活用・行下一二段活用・行上一段活用・行上二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用）の九つのうちの二つを答える。

「体系古典文法」(6頁〜25頁)をよく読んで、それぞれの空欄を埋め、後の問題を解きなさい。

一、古語

わたしたちが現在使っていることばを現代語(口語)と呼ぶのに対して、平安時代中ごろのものを基本とする、近世(江戸時代)までのことばを古語(文語)と呼んでいる。

二、古典文法

言葉の用い方には一定の約束や慣習があり、この約束や慣習は(文法)と呼ばれる。また、わが国では、現代語における(口語文法)に対して、古語には(古典文法・文語文法)がある。

三、仮名遣い

文語文と口語文との違いの一つに、仮名遣いがある。口語文に使われる仮名遣いを現代仮名遣いというのに対して、文語文に使われている仮名遣いを(歴史的仮名遣い)という。

四、読み方

1、語中語末のハ行(は・ひ・ふ・へ・ほ)は、それぞれ(ワ・イ・ウ・エ・オ)と発音する。語頭にあるハ行音は、もとのまま発音する。
複合語の場合もそのまま発音する。

例 にはひ↓ニオイ () わらは↓ワラワ () あめふり↓アメフリ ()

2、ワ行の「ゐ・ゑ・を」は、それぞれ「イ・エ・オ」と発音する。

例 率^{ひき}ある↓ヒキイル () 植^うあたり↓ウエタリ () をかし↓オカシ ()

3、母音が連続するときは、長音になる。

① au↓O(オー) ② iu↓yu(ユー) ③ eu↓yo(ヨー) ④ ou↓O(オー)

4、母音に「ふ」が続くとき、1と3の原則が働いて長音になる。

例 てふ 1の原則により(t e h u↓t e u) 3の原則により(t e u↓t y↓O)

5、助動詞「む」「らむ」「けむ」、助詞「なむ」などの「む」は「ン」と発音する。

6、「ぢ」「じ」「くわ」「ぐわ」はそれぞれ「ジ・ズ・カ・カ」と発音する。

例 ぢ^ぢく↓ジゴク () みづ↓(ミズ) () にくわん↓(ニコカン) () ぐわん↓(ガン) ()

次のそれぞれの問題を解きなさい。

A、次の空欄にあてはまるひらがなを書き込みなさい。

わ	や
ゐ	い
う	ゆ
ゑ	え
を	よ

(大きく丁寧に書きなさい)

B、次の古語を現代仮名遣いに直してひらがなで記せ。

- | | | | | | |
|--------|--------|---------|---------|--------|--------|
| ① さなむか | (さなむか) | ② かひもちひ | (かひもちひ) | ③ おもふ | (おもふ) |
| ④ わらふ | (わらう) | ⑤ かひ | (かい) | ⑥ をしふ | (おしう) |
| ⑦ もみぢ | (もみじ) | ⑧ つはもの | (つわもの) | ⑨ あど | (いど) |
| ⑩ ゑむ | (えむ) | ⑪ うゑき | (うえき) | ⑫ とのゐ | (とのゐ) |
| ⑬ をり | (おり) | ⑭ ゐん | (いん) | ⑮ あづまぢ | (あづまぢ) |

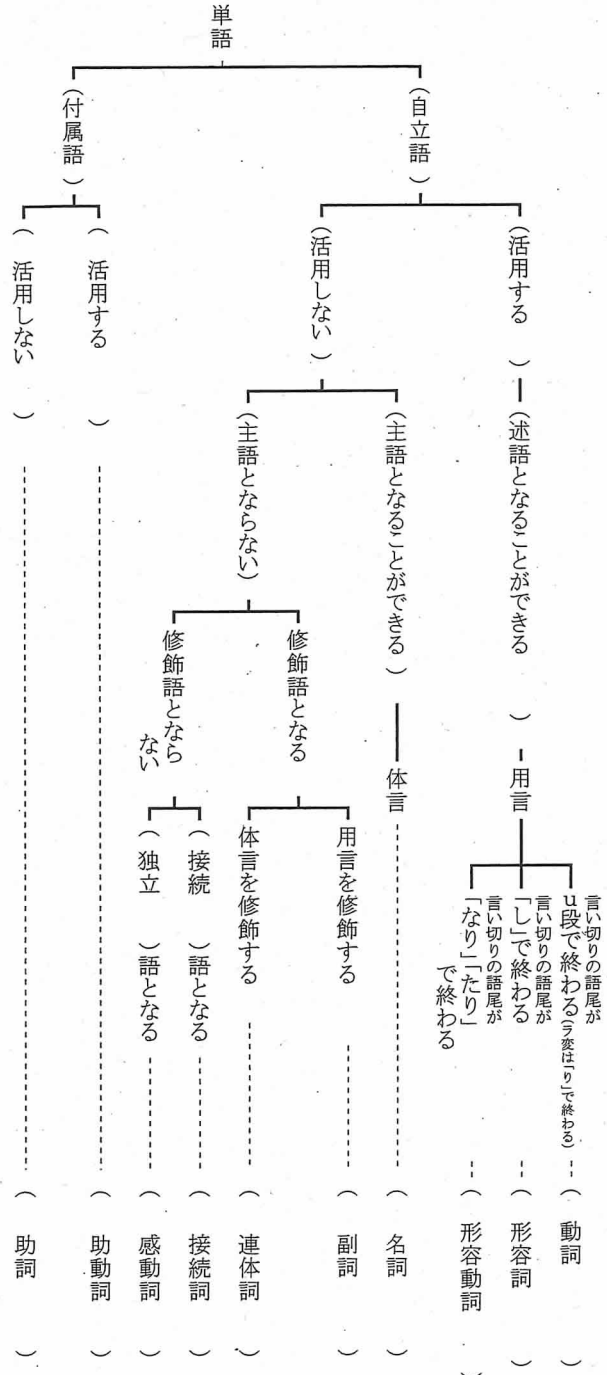
C、次の語の読み方をカタカナで記せ。

- | | | | | | |
|---------------|------------|--------------|------------|---------|--------|
| ① やう様 | ↓ (ヨー) | ② けふ(今日) | ↓ (キョー) | ③ りふ(言) | ↓ (ユー) |
| ④ まうす(申す) | ↓ (モース) | ⑤ うつくしう(美しく) | ↓ (ウツクシユー) | | |
| ⑥ けうらなり(清らなり) | ↓ (キョーラナリ) | ⑦ てふ(蝶) | ↓ (チョー) | | |
| ⑧ せうせう(少々) | ↓ (ショーショー) | ⑨ やうやう(漸う) | ↓ (ヨヨー) | | |
| ⑩ くわじ(火事) | ↓ (カジ) | ⑪ こよひ(今宵) | ↓ (コヨイ) | | |
| ⑫ いうげん(幽玄) | ↓ (ユーゲン) | | | | |

五、品詞

単語の分類の基準では、次の三つが一般的である。

- ・自立語か、（付属語）かどうか。
 - ・（活用）するか、（活用）しないか。
 - ・自立語で、どんな文節になり得るか。
- D、次の品詞分類表の空欄を埋めなさい。



六、用言 — 活用のある（自立語） —

用い方によって語形が規則的に変化するものを（活用）といい、活用する単語を（活用語）、変化する語形を（活用形）という。また、活用しても変化しない部分を（語幹）、活用によって変化する部分を（活用語尾、語尾）という。

- 自立語で活用があり、単独で述語になることができる語を（用言）（という）。（用言）は、動詞・形容詞・形容動詞の三つに分かれる。
- 1、動詞 ↓ 自立語で、活用があり、述語となることができる語。u段の音で言い切る。ただし、ラ変は「り」で終わる。
 - 2、形容詞 ↓ 自立語で、活用があり、述語となることができる語。「し」で言い切る。
 - 3、形容動詞 ↓ 自立語で、活用があり、述語となることができる語。「なり」「たり」で言い切る。
- 文語の活用語には次の六つの活用形がある。

- 1、未然形 ↓ 下に続く主な語としては「ず」「む」がある。
- 2、連用形 ↓ 下に続く主な語としては「たり」「て」がある。
- 3、終止形 ↓ 言い切るときに用いる。
- 4、連体形 ↓ 下に続く主な語としては「こと」「とき」がある。
- 5、已然形 ↓ 下に続く主な語としては「ど」「ども」がある。
- 6、命令形 ↓ 命令で言い切るときに用いる。

自立語で活用があり、述語となることができ、言い切りの形がu段になるものを（動詞）という。
口語動詞の活用は五種類、文語動詞の活用は九種類に分類される。

- 1、四段活用 2、ナ行変格活用 3、ラ行変格活用 4、下一段活用
 - 5、下二段活用
 - 6、上一段活用 7、上二段活用
 - 8、カ行変格活用
 - 9、サ行変格活用
- 「活用形を答えなさい。」という設問に対しては（未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形）の六つのうちの二つを答える。
「活用形の種類を答えなさい」という設問に対しては（活用四段活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用・カ行下一段活用・サ行下二段活用・行上一段活用・行上二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用）の九つのうちの二つを答える。